

# 令和6(2024)年度のESD業務 実施報告資料

2025年2月12日

第2回 EPO中部・中部地方ESD活動支援センター運営委員会

# 2024年度中部地方ESD活動支援センター主催イベント／会合

区分	エリア	設営	時期	テーマ／内容等	連携先／関係者／登壇者等	
ESD/SDGs 推進NW地 域フォーラム	名古屋	ハイブ リッド	9/19	第7期共通テーマ:社会と学校のESDネットワーク 2024年度テーマ「ESD:地域と学校との大学連携」 地域と学校、学校と学校の連携に関する話題提供と ディスカッション	<ul style="list-style-type: none"> <li>基調講演 朝岡幸彦先生(白梅学園大学教授、東京農工大名誉教授、飯田市で活動実績)</li> <li>地域ESD拠点など、学び合いプロジェクト有識者検討会メンバーより</li> <li>話題提供:飯田市の学輪IDA活動、飛騨高山大学連携センター</li> <li>コメンテーター:加藤隆弘先生(金沢大学)、ファンリ:古澤先生(中部大)</li> </ul>	
SDGs学生 サミット	—	オンラ イン・ 配信	2/1	ユースに対するSDGs活動交流を通じたESDの場の設営 ・学生、生徒の取組発表、社会人の話題提供 ・交流ディスカッション	<ul style="list-style-type: none"> <li>SDGs関連活動に取り組む大学生、高校生、地域連携など</li> <li>基礎自治体、企業、NPO等のSDGs取組</li> <li>運営委員に対するディスカッションファンリテーターの依頼</li> <li>総括:伊藤恭彦運営委員会座長(名古屋市立大学)</li> </ul>	
自然資産を 活かした ESDダイア ログ	飛騨・ 高山 を想定	リアル	11/22, 23	第7期共通テーマ:山と水と人間と 2024年度テーマ「飛騨高山からのESD発信」 1日目ESDダイアログ 基調講演、取組発表、ディスカッション 2日目エクスカージョン	<ul style="list-style-type: none"> <li>飛騨山脈ジオパーク推進協会</li> <li>高山市、および高山市立のユネスコスクール</li> <li>岐阜県立飛騨高山高等学校</li> <li>講師:水谷瑞希先生(信州大学)ESDと自然資産についてのインプット</li> </ul>	
多様な主体の連携促進、交流機会提供	学び合い の場①	愛知	リアル	8/23	大学ゼミと連携した学生向け、学び合いの場企画ワー クショップ	<ul style="list-style-type: none"> <li>愛知教育大学大鹿先生とそのゼミ生</li> <li>学び合いプロジェクト有識者検討会メンバー</li> </ul>
	学び合い の場②	名古屋	リアル	11/7	地域温暖化防止活動推進センター(温セ)と連携した温 セ職員・推進員向け、学び合いの場企画ワークショップ	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域地球温暖化防止活動推進センター(中部ブロック7県の合同研修)</li> <li>学び合いプロジェクト有識者検討会メンバー</li> </ul>
	実践活 動	福井	リアル	11/11	坂井市生活環境部環境推進課と連携した、学び合いの 場企画ワークショップと運営シミュレーション	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会教育主事や市職員を対象</li> <li>学び合いプロジェクト有識者検討会メンバー</li> </ul>
	有識者 検討会	富山	リアル	6/5	ESDワークブックを活用したワークショップ手法の検討と 検証計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>中部大学RCE中部・古澤礼太、PECとやま・塚勇人、アルマス・バイオコスモス研究所・水上聡子、を想定※第6期メンバーと同じ</li> </ul>
名古屋		リアル	9/18	学び合いの場企画ワークショップ結果の検証、開催手 法の取りまとめ、冊子と動画の構成案検討		
	福井	リアル	11/12	活動のとりまとめ、冊子と動画のプロトタイプ作成 課題の抽出、次年度の計画		

# 個別イベントについて

- テーマ：ESD：地域・学校と大学連携
- 目的：ESD活動の情報共有と意見交換
- 時期：2024年9月19日（木）13:00～15:40  
(ふりかえり交流～16:30)
- 対象：一般参加者、中部地方ESD拠点、関係ステークホルダー
- 開催方法：ウインクあいち907会議室、ハイブリッド

## 第1部 <オープン開催>

- 基調講演 地域・学校・大学でESDインフラを創る  
朝岡 幸彦 白梅学園大学特任教授
- 話題提供 ①学輪IIDAの取組とESD  
飯田市企画部大学誘致連携推進室  
②飛騨高山における大学連携の取組  
飛騨高山大学連携センター

## 第2部 <オープン開催>

- 地域ESD拠点による事例報告（2題程度）
- 交流ディスカッション  
コーディネーター  
古澤礼太 中部大学国際ESD・SDGsセンター准教授
- 総括 加藤隆弘 金沢大学准教授

## 第3部 <クローズ開催> ○ふりかえり交流

- ・ ESD推進ネットワーク 登壇者、地域ESD拠点団体による意見交換  
コーディネーター  
古澤礼太 中部大学国際ESD・SDGsセンター准教授

中部地方ESD推進ネットワーク地域フォーラム

# ESD：地域・学校と 大学連携

2024年9月19日(木) 13:00~15:50

オンライン開催・参加無料

### 【プログラム】

- ▶ 挨拶・趣旨説明
- ▶ 第1部 ○ 基調講演「地域・学校・大学でESDインフラを創る」  
白梅学園大学特任教授 朝岡 幸彦 氏  
○ 話題提供「学輪IIDAによる大学連携について」  
飯田市企画部大学誘致連携推進室室長 原 勝美 氏  
「飛騨高山における大学連携の取組」  
飛騨高山大学連携センター長 六角 裕治 氏
- ▶ 第2部 ○ 地域ESD拠点活動紹介  
○ 交流ディスカッション  
コーディネーター：中部大学国際ESD・SDGsセンター准教授、中部ESD拠点事務局長 古澤 礼太 氏  
○ 総 括 金沢大学人間社会研究域学校教育系准教授 加藤 隆弘 氏

申込  
方法

QRコードから申し込みサイトにアクセスしてください。→  
参加登録すると、@zoom.us または @chubuesdcenter.jp のアドレスから  
登録されたメールアドレス宛に招待メールが自動送信されます。



主催事務局 / 問合せ先 中部地方ESD活動支援センター(愛知県EPO中部)  
E-mail: office@chubuesdcenter.jp

中部地方ESD活動支援センター  
Education for Sustainable Development

## 参加者

27名(地域ESD拠点:会場参加4名、一般・地域ESD拠点等  
オンライン参加23名)

# SDGs学生サミット (2月1日)

伊藤座長、堺委員、田辺委員、水上委員

- テーマ：ESD：地域・学校と大学連携
- 目的：SDGs活動の発表と議論
- 時期：2025年2月1日（土）13:00～17:30
- コア参加
  - ・ SDGs関連活動に取り組む大学生、高校生、地域連携など
  - ・ 基礎自治体、企業、NPO等のSDGs取組
- 一般対象：ユース（大学生、高校生など）、一般市民
- 開催方法：オンライン（ハブ：中部大学DEルーム）



## コア参加

ユース・学生

SDGs活動に関心のある学生など

社会構成者

SDGs施策実施中の自治体など

## SDGs 学生サミット

2025年2月1日(土)  
13:00～17:30・オンライン

中部地方の大学生・高校生グループが「ユースと地域が連携するローカルSDGs」をテーマにオンラインで取組を発表します。

### 発表団体 (予定)

- ▶ 金沢星稜大学
- ▶ 中部大学ESDエコマネーチーム
- ▶ 富山大学
- ▶ 松本大学
- ▶ 第一学院高等学校富山キャンパス

### 一般参加 申込不要

- ▶ 当日 YouTubeライブ配信を視聴できます。
- ▶ 視聴URLはwebページに掲載します。

### プログラム

- 第1部 団体発表  
「ユースと地域が連携するローカルSDGs」  
SDGsの取組について、地域と連携して活動している大学生・高校生グループが取組について発表を行います。
- 第2部 話題提供  
地域のSDGsの取組～地域社会におけるSDGsの取組～  
中部地方のSDGsの取組をしている自治体・企業・団体から、施策や取組をご紹介します。  
○ 岐阜県高山市総合政策課 (SDGs推進部2024年度選定)  
○ 八洲グループ代表企業 八洲建設株式会社  
○ NPO法人イナミライデザイン
- 第3部 ディスカッション  
ローカルSDGsのために、連携して協働取組を進めよう！  
進行：原 理史 (中部地方ESD活動支援センター)  
総括：伊藤 恭彦氏 (名古屋市長、EPO中部・中部ESD支援センター運営委員会 座長)

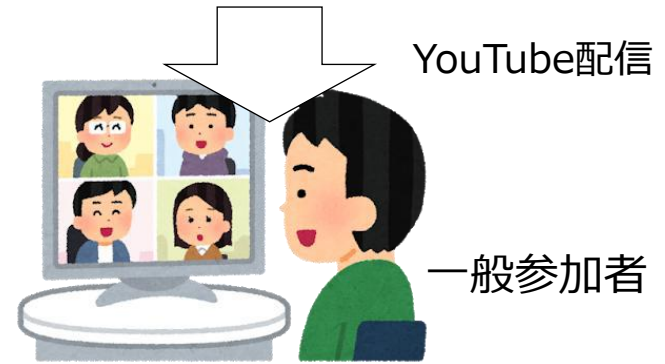
Webページ 検索窓

ハブとなる中部大学中部高等学術研究所 デジタルアースルーム

主催：中部地方ESD活動支援センター（環境省EPO中部内）  
協力：中部大学中部高等学術研究所、国際GISセンター 問題複合体を対象とするデジタルアース共同利用・共同研究拠点

中部地方ESD活動支援センター  
Hub Center for Sustainable Development

参加者  
学生、高校生：23名  
その他関係者：14名



主催：中部地方ESD活動支援センター（環境省EPO中部内）  
協力：中部大学中部高等学術研究所、国際GISセンター 問題複合体を対象とするデジタルアース共同利用・共同研究拠点

第7期（令和6年度～8年度）共通テーマ：山と水と人間と  
 主催：中部地方ESD活動支援センター

<ESDダイアログの概要>

2024年度テーマ「飛騨高山からのESD発信」  
 場所：飛騨高山まちの博物館研修室、中部山岳国立公園奥飛騨ビジターセンターなど  
 対象：自然保護関係者・ガイド、教育関係者・学生・生徒、市民、観光関係等

1日目ESDダイアログ

2日目エクスカージョン

・飛騨・北アルプス自然文化センター  
 （平湯ビジターセンター） など

参加者

1日目 ESDダイアログ：32名

2日目 エクスカージョン：8名

ESDダイアログ 2024  
**山と水と人間と**  
 ~飛騨高山からのESD発信~  
 2024年**11月22日(金)~23日(土)** @ 飛騨高山

豊かな自然や景観など自然資産を活用したESD(持続可能な開発のための教育)ダイアログを開催します。自然保全活動、観察会、観光などESD活動や環境学習活動の人づくり、地域づくりの学び合いの場に参加しませんか。様々なESD学習活動に携わる皆様はもちろん、自然やSDGsにご興味のある方、参加をお待ちしています。

**1日目 ESDダイアログ**  
 日時 11月22日(金) 10:30-15:15  
 会場 飛騨高山まちの博物館 研修室  
 岐阜県高山市上一之町75番地

**2日目 エクスカージョン**  
 日時 11月23日(土) 8:30-15:30  
 場所 中部山岳国立公園の見学  
 出発・解散：高山駅西ロータリー

< ESDダイアログのプログラム及びエクスカージョンの行程は、裏面をご覧ください >

**参加申込方法**

- **申込方法** 参加申込フォームからお申し込みください。  
<https://forms.gle/rUCBjP6h9ubG3j3q8>  
 ウェブサイトからも申込できます。
- **参加費** 参加は無料です。  
 ※ 宿泊は各自で手配願います。  
 ※ 2日目の昼食は実費となります。
- **お問合せ** 中部地方ESD活動支援センター(環境省EPO中部)  
 E-mail: office@chubuesdcenter.jp

写真「飛騨高山の古い町並」  
 提供：(一社)飛騨高山観光コンベンション協会

写真「麓の町」 提供：中部山岳国立公園飛騨高山ビジターセンター

主 催：中部地方ESD活動支援センター(環境省EPO中部)  
 後 援：高山市 高山市教育委員会

# 2024年度学び合いプロジェクト

気候変動社会教育・社会への実装「学び合いの場の作り方」

# SDGs社会教育実践ツール「中部版ESDワークブック」の活用



- 第6期3カ年度に渡り展開したESD学び合いプロジェクトの成果として有識者のWGの検討をもとに冊子「ESDワークブック」を2023年度に作成している。
- ミステリーワークショップ、ジグソー法ワークショップをはじめ、実践セミナーで実施したワーキングの方法などを掲載している。

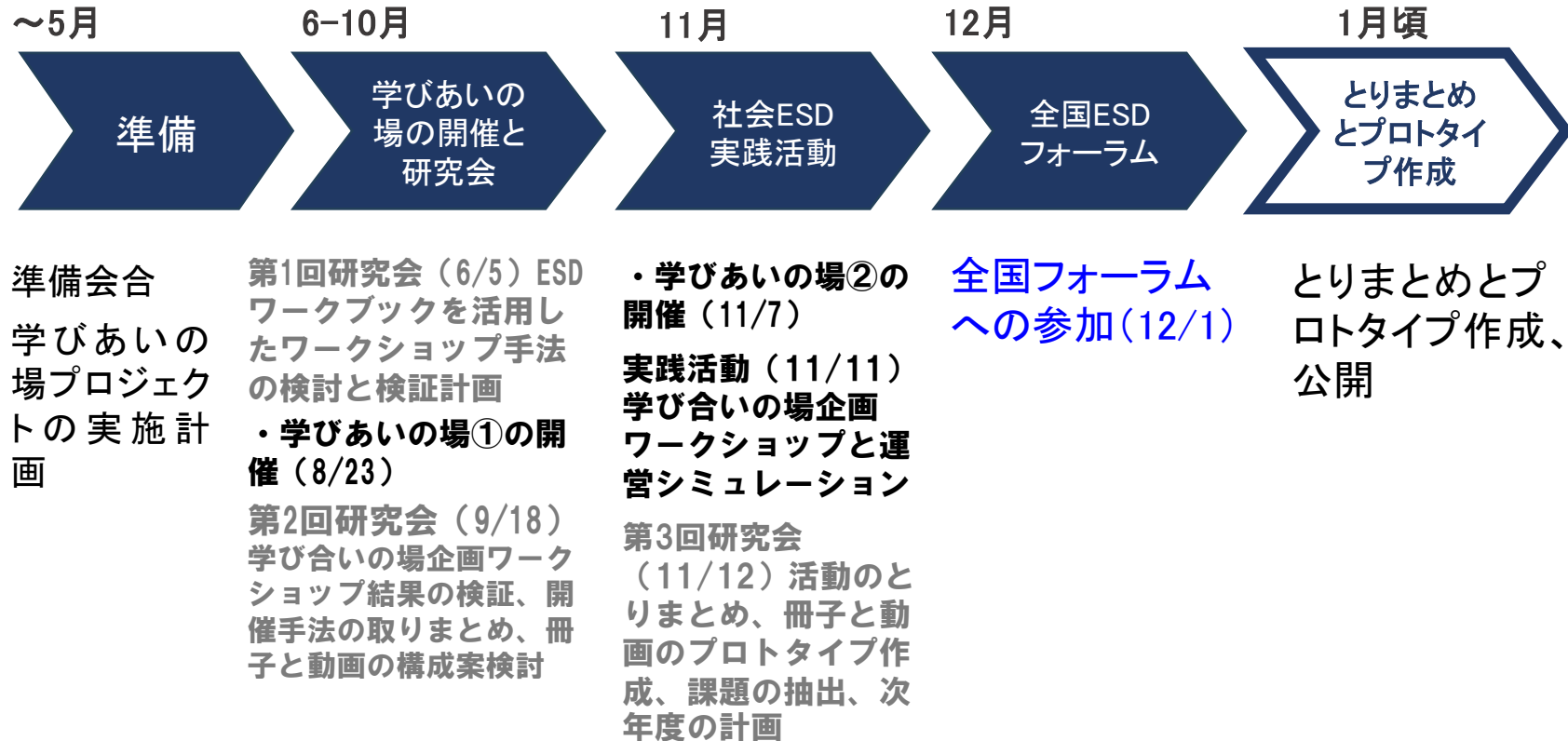
## 【特徴】

- 有識者で構成するWGを年3回開催。2023年度のWGでは企業、行政、市民団体でのESD普及のハードルを下げるためにペルソナワークショップ検討を実施。
- 外部の学識者の提言を受け、地域づくり＝人づくりの観点から、「地域」を意識したESD展開を構成。
- 持続可能な社会のための人づくりのビジョンを示すためユネスコのキーコンピテンシーの概念を導入。
- ESD実践を具体的に手助けするため「人」、「こと」、「もの」、「金」の観点を導入した企画用ワークシートを掲載。



# 環境省EPO中部・中部地方ESD活動支援センター

## 気候変動社会教育・社会への実装「学び合いの場の作り方」(2024)



ESDワークブックを活用し、学び合いの場づくりを担う、様々な主体の学習、講座、研修会等の企画担当者に、学び合いの場を企画するワークショップを実施

## 学び合いプロジェクト有識者検討会

古澤礼太 中部大学国際ESD・SDGsセンター准教授、中部ESD拠点協議会事務局長

水上聡子 EPO中部運営委員、アルマス・バイオコスモス研究所代表

堺 勇人 EPO中部運営委員、一般社団法人 環境市民プラットフォームとやま（PECとやま）事務局長

原 理史 中部地方ESD活動支援センター、中部大学国際ESD/SDGsセンター研究員

【オブザーバー】 環境省 中部地方環境事務所環境対策課

【事務局】 清本三郎 EPO中部統括

富山	6/5	ESDワークブックを活用したワークショップ手法の検討と検証計画
名古屋	9/18	学び合いの場企画ワークショップ結果の検証、開催手法の取りまとめ、冊子と動画の構成案検討
福井	11/12	活動のとりまとめ、冊子と動画のプロトタイプ作成 課題の抽出、次年度の計画

# 学び合いの場①学生向けワークショップ

堺委員、

開催 2024年8月23日(金)14:00～15:30(90分)

場所 愛知教育大学116サイエンスアクティビティルーム

目的 ESDワークブックを用いた「学び合いの場づくり」実施者研修用プログラムの試行

内容 大学ゼミと連携した学生向け、学び合いの場企画ワークショップ

## ○配役と役割：4人で構成

A：出展当事者

B：大学祭に行こうと思っている一般人

C：大学祭の委員

D：顧問の先生、司会と記録を担当

## ○シチュエーション

SDGs社会教育のイベントの企画書を作成する。

## ○ディスカッションを元に企画書を作成する

参加者18名

(EPO・環境省除く出席者数)



学び合いの場づくり 企画ワークシート	
必要な「[人]」「もの」「こと」「金」を想定しながら、イベント企画のアイデアをメモしてみよう。	
<b>学びの目標</b> 何のために開くのか、どんな持ち帰りをしてもらうのか、イメージしよう。 イベントを開くこと自体は、目標ではありません。	<b>テーマ</b> 目的や分野を基きキーワードをテーマに使ってみよう。 キャッチーで短いタイトルを考えよう。 サブタイトルも活用しよう。
<b>想定される参加者</b> だれに来てほしいのか、持ち帰った先も考えてイメージしよう。	
<b>●企画内容</b>	<b>●必要なもの</b>
<b>日時・場所</b> どんな時期がよいか、週末か平日か。場所のイメージは？	① 場所は室内か、室外か。広さの規模もイメージしよう。 ② 他のイベントとの連携、時期やタイミングも考えよう。 ③ 会場費のことも頭の隅に置いておこう。
<b>プログラム(人さし)</b> どんな分野のどんな内容で行うか、具体的な内容を考えよう。 ○講演？ ○議題提供？ ○ディスカッション？ ○ワークショップ？ 組み合わせも重要。 併せて登壇者もイメージしよう。	④ 誰にお誘いすればよいか。登壇者の人選から企画が始まることもある。 ⑤ 時間帯や全体の流れをイメージしてみよう。 ⑥ しつらえやワークショップの道具もアイデアがあれば考えておこう。 ⑦ 登壇者が遠方の方だったり、有名人だったりとのお金がかかる程度考えておこう。
<b>主催と協力者(共催・後援)</b> 単独で開催するのか、協働して行うのか、協力者はあるのかなどを考えておこう。	⑧ 協力してもらえる組織はどこか？ 誰か相談できる人はいるか？ 思いのついでメモ。 ⑨ ただでは協力してもらえないこともある。
<b>人あつめ(参加者)</b> どんな方法で参加者を募るか、イメージをしよう。	⑩ 学校や町内会など、募集であてになる組織はあるか？ ⑪ チラシを作ったり、Webに載せたり、方法いろいろ。 ⑫ メディアにうまく取材してもらえばお金もかからない。

# 学び合いの場②推進員向けワークショップ概要とテーマの設定

水上委員

開催 : 2024年11月7日(木)10:10~12:00 ウィンク  
あいち 1303会議室

気候変動教育における中間支援～学び合いの場づくり企画ワークショップ【学び合いの場②】

「環境省EPO中部・中部地方ESD活動支援センター連携講座」(温セ中部ブロック合同検討会11月6~7日)

地域温暖化防止活動推進センター(温セ)と連携した温セ職員・推進員向け、学び合いの場企画ワークショップ

<参加者>

中部ブロック温暖化防止活動推進センター職員、推進員 25名

## 【テーマ分野】

1. 食を巡るつながりから気候変動を考える【食】
2. 人の移動(交通)から気候変動を考える【交通】
3. 家のづくりや生活から気候変動を考える【家庭】
4. 流域地形と自然災害から気候変動を考える【防災】
5. 自然環境への影響から気候変動を考える【自然】

## WS概要

【解説】ESDとしての「学び合いの場」づくりについて

【ディスカッション】企画づくりテーマ設定

【ディスカッション】学び合いの場の形式検討

【ワーク】学び合いの場の企画づくり

【ワーク】企画した学び合いの場についてのSDGsチェック

【ワーク】ペスソナワークショップによる企画のブラッシュアップ

【プレゼン】議論した内容を発表

## 【テーマの例】

1. 食品ロスを抑えるためにできること
2. 公共交通を使おう！ワークショップ
3. ZEHの良さを知って住み替えを考えよう
4. 気候変動は地域の豪雨被害の原因か
5. 外来種が多くなっているのは気候変動の影響か

開催 : 2024年11月11日(月)15:00～  
16:30 坂井市役所 3F大ホール

2024 ESD for SDGs実践セミナー「学び合いの場づくり」実務者研修

<参加者> (坂井市教職員 全39名、9チーム))市役所職員(14名3チーム)、コミュニティセンター職員(17名4チーム)、中学校教員(8名2チーム)

## WS概要

【解説】ESD for SDGsとしての「学び合いの場」づくりについて

【ディスカッション】企画づくりテーマ設定

【ワーク】企画した学び合いの場についてのSDGsチェック

【ワーク】学び合いの場の企画づくり

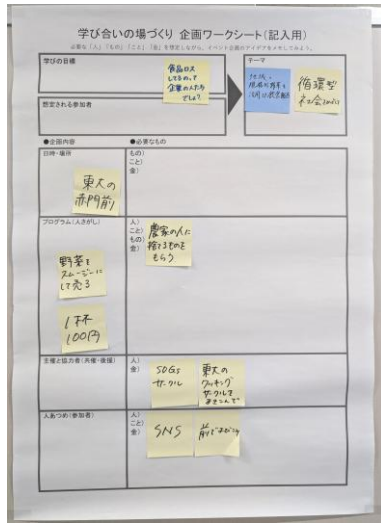
【ワーク】ペソナワークショップによる企画のブラッシュアップ

【プレゼン】議論した内容を発表

## テーマ案

- 1誰もが自分らしさを活かして地域に貢献しながら自己実現していけるまちづくりについて話し合う場
- 2一人一人の人権と多様性を大切に、お互いを尊重できるまちづくりについて話し合う場
- 3坂井市で結婚したり、移住定住(Uターン、Iターンetc.)したくなるまちづくりについて話し合う場
- 4子どもや若者が地元愛やふるさと意識、well-beingを実感するまちづくりについて話し合う場
- 5環境面でさらに持続可能なまちになるためのライフスタイルについて話し合う場
- 6さらに安全安心でレジリエンスが高いまちになるための地域づくりについて話し合う場

# 学び合いの場づくりワークショップ成果と課題の例（学生向けワークショップ）



## 振り返り

### ○全体

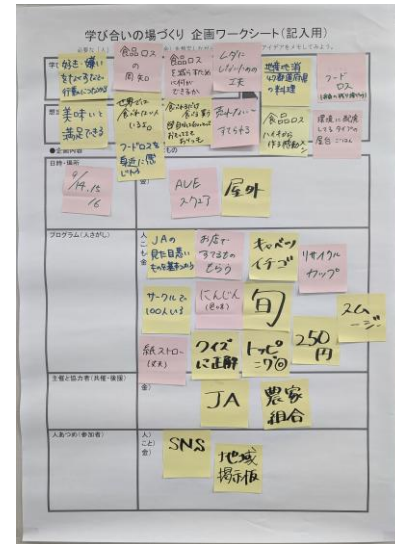
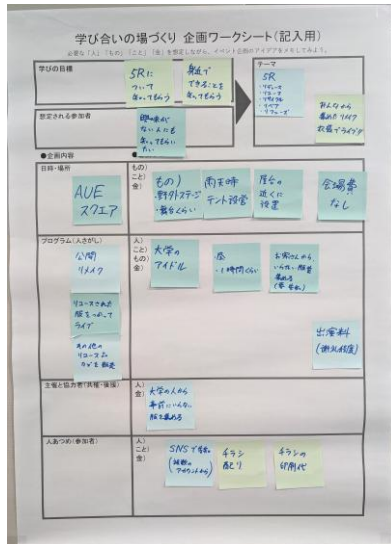
- ・時間が足りない
- ・企画テーマの絞り方が難しい
- ・背景知識が足りない
- ・ペルソナWSの時間は少なくともいいのでは

### ○ペルソナWS

- ・役から離れてしまう
- ・年代が複数ある方が視点がわかれていいのでは
- ・なんで「顧問」がいるのか⇒聞き役に回っていた

### ○グループWS企画書づくり

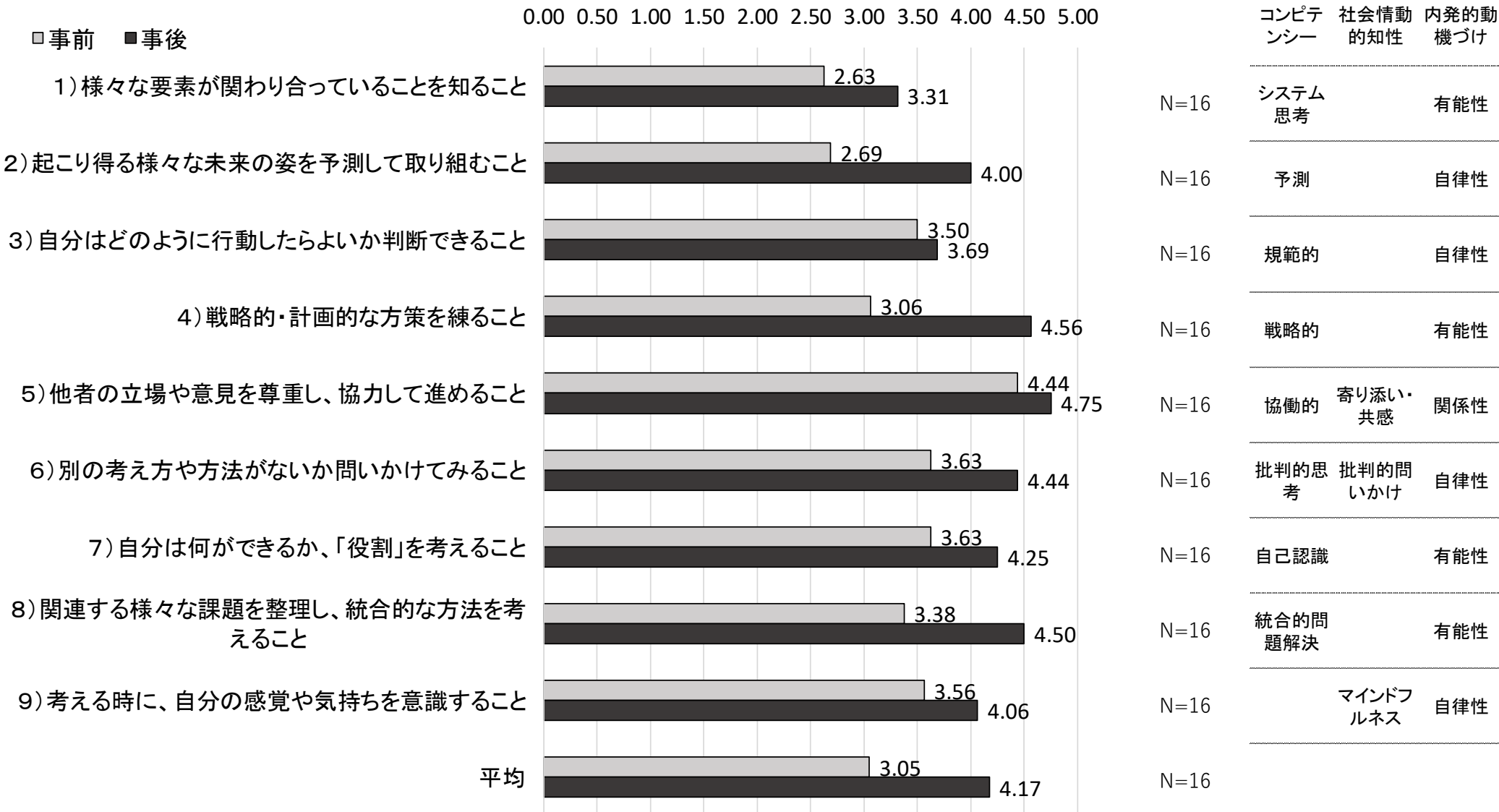
- ・書式が書きにくかった
- ・議論が全員参加にならなかった
- ・企画者と対話者に分かれてしまった
- ・企画に無関係の人がいた（場面設定に無理がある?）



# アンケート【コンピテンシー】事前事後比較 学び合いの場①

5件法平均値：事前(これまでの態度)、事後(今後の意向)

対応する学習目標と動機付け欲求



企画案を検討する時のSDGsチェックシート改善の検討  
：ロジックモデルを意識した「学び合いの場」の企画のためのツールの案

## 【変化の理論 Theory of Change】



インパクト  
(地域・社会の変容)



アウトカム  
(学び合った人たちの変容)





12月1日開催「ESD推進ネットワーク全国フォーラム2024」に、中部地方ESD活動支援センターによる学び合いプロジェクトの有識者検討会議委員である水上氏とともに参加、及び、会場内にブース出展を行い、今年度実施した学び合いプロジェクトについての報告を行った。





## ESD推進ネットワーク全国フォーラム2024

### 気候変動×〇〇

～点から線、線から面へのつながりづくり～

ESD推進ネットワーク全国フォーラムは、ESD推進ネットワークの主たるステークホルダーが一堂に集い、ESDに関する最新動向、ネットワーク形成の状況を共有するとともに、全国各地の実践事例を学ぶ機会として毎年開催しています。

今回は地球と人類のウェルビーイングの実現に向けて、気候変動問題に取り組む多様な主体が集い、学び合うことで、気候危機を乗り越えるためにESDに求められる役割や動きについて意見交換をします。

「SDGs達成の鍵」とされているESDに関わる学校・団体・企業など、全国各地から多くの方々のご参加をお待ちしています。

2024年  
**12月1日 10:00～16:00**  
 (受付：9:30～)

**参加費 無料**



国立オリンピック記念青少年総合センター国際交流棟  
 国際会議室（東京都渋谷区代々木神園町3-1）アクセス  
 ※オンライン配信あり

**参加申込** 申込フォームに必要事項をご記入の上、令和6年11月22日（金）までにお申し込みください。右のQRコードからも申込フォームにお入りいただけます。



主催：ESD活動支援センター、文部科学省、環境省

【問い合わせ先】ESD活動支援センター  
 TEL：03-6427-9112 MAIL：contact@esdcenter.jp

## ESD推進ネットワーク全国フォーラム2024

### 気候変動 × 〇〇 ～点から線、線から面へのつながりづくり～

環境省と文部科学省は、持続可能な開発のための教育(ESD)を全国各地で推進するため、オープンネットワーク「ESD推進ネットワーク」を共同で運営しています。全国フォーラムは、ESDに関心のある方々が集い、ESDに関する最新の国内外の動向、ESD推進ネットワーク形成の状況を共有するとともに、全国各地の実践事例を学び合うもので、ESD活動の更なる普及とより一層の活動推進を目的に開催します。

今回は、11月25日(月)～12月1日(日)に文部科学省が開催するユネスコウィーク期間中に実施し、地球と人類のウェルビーイングの実現に向けて、気候危機を乗り越えるためにESDに求められる役割や動きについて意見交換を行います。

◆日時:令和6年12月1日(日)10:00～16:00(受付9:30～)

◆会場:国立オリンピック記念青少年総合センター国際交流棟 国際会議室(東京都渋谷区代々木神園町3-1)

◆スケジュール:

時間	プログラム
9:30	開場、受付
10:00	環境教育・ESD実践動画100選認定証授与式
11:00	基調報告(環境省 大臣官房 総合政策課 環境教育推進室長 黒部一隆)
11:15	基調報告(文部科学省 国際統括官付 国際戦略企画官 本村 宏明)
11:30	ポスターセッション
12:30	昼休憩
13:30	基調講演 堅達 京子氏(NHK エンタープライズエグゼクティブ・プロデューサー)
14:25	パネルディスカッション テーマ:気候危機を乗り越えるために我々に求められること ●モデレーター: ニノ宮りもさち氏(立教大学環境学部設置準備室 / 大学院社会デザイン研究科教授) ●パネリスト: 堅達京子氏(NHK エンタープライズエグゼクティブ・プロデューサー) 佐藤真久氏(京都市大学大学院環境情報学研究所・研究教授) 高田研氏(地球温暖化防止全国ネット(JNCCA)理事長) 秦さやか氏(杉並区立西田小学校主任教諭) 加藤弘人氏(青年環境 NGO Climate Youth Japan 会計統括/エネルギー政策チーム / 一橋大学経済学研究所 修士課程1年)
15:55	閉会挨拶
16:00	終了

その他

## ① 専門家への包括ヒアリング

- ・ 白梅学園大学 特任教授 朝岡幸彦（ESD地域フォーラムの基調講演講師）
- ・ 2025年1月25日9:00～11:00
- ・ 主な示唆

これまでESDが環境教育に対して、より広範囲な視野を与えてきたこと  
コロナパンデミック影響とグローバル社会分断傾向の社会変化をESDに織込む必要性  
地域の様々なテーマや現場からボトムアップ的にESDを展開すべきこと

## ② 教育部局、教育委員会、現場の教員等

- ・ 愛知県あま市立の小学校 2025年1月30日13:00～15:00
- ・ 富山県立上市高等学校 2025年2月22日（想定）

## ③ 中小企業の経営等

- ・ 豊田市SDGs認証制度の登録企業を想定

次年度に向けて

# 今年度の成果と課題

## ① ESD推進ネットワーク地域フォーラム

- 今年度の成果: 地域の大学連携に視線を向け、新しい視点「ESDインフラ」についてなど議論
- 今年度の課題: 地域ESD拠点の参加が増加せず
- 今後の方向性: 開催期日や開催方式についての再検討

## ② ESDダイアログ

- 今年度の成果: 新しい高山飛驒地域での開催と、関係者多数の参加、及び地域に根ざした議論
- 今年度の課題: 地元との連携構築作業、開催内容やその成果についての広域への発信
- 今後の方向性: 対象地域の選定と連携、広域への発信方法の検討

## ③ SDGs学生サミット

- 今年度の成果: 地域連携を主題にした参加を募集し、高校の参加をも得ることができた
- 今年度の課題: 参加ハードルが上がったことによる参加者の減少、GIS導入が不足
- 今後の方向性: 参加要件等参加募集方法の見直し、GISによる活動状況の可視化の導入

## ④ 学び合いプロジェクト

- 今年度の成果: ワークブックを活用した試験的な「学び合いの場づくりワークショップ」の実施経験
- 今年度の課題: 状況に応じたワークショップパッケージの検討、SDGs観点の導入実践
- 今後の方向性: 様々な状況に応じて活用できるパッケージの作成と実践

## 参考情報

## 環境教育・ESD推進経費 ② 地域脱炭素に資するESD推進事業の拡充



【令和7年度予算（案） 12百万円（拡充）】

全国で地域の特性に応じた実践的な気候変動教育を推進することにより、気候変動対策の自分事化を推進します。

### 1. 事業目的

学習指導要領に基づく気候変動教育は実施されているが、気候変動の影響や対応は地域毎に異なることから、ESD活動支援センターが学校と地域をつなぐ中間支援の実証事業の実施等により、地域特性に応じた実践的な気候変動教育の進展を図る。

### 2. 事業内容

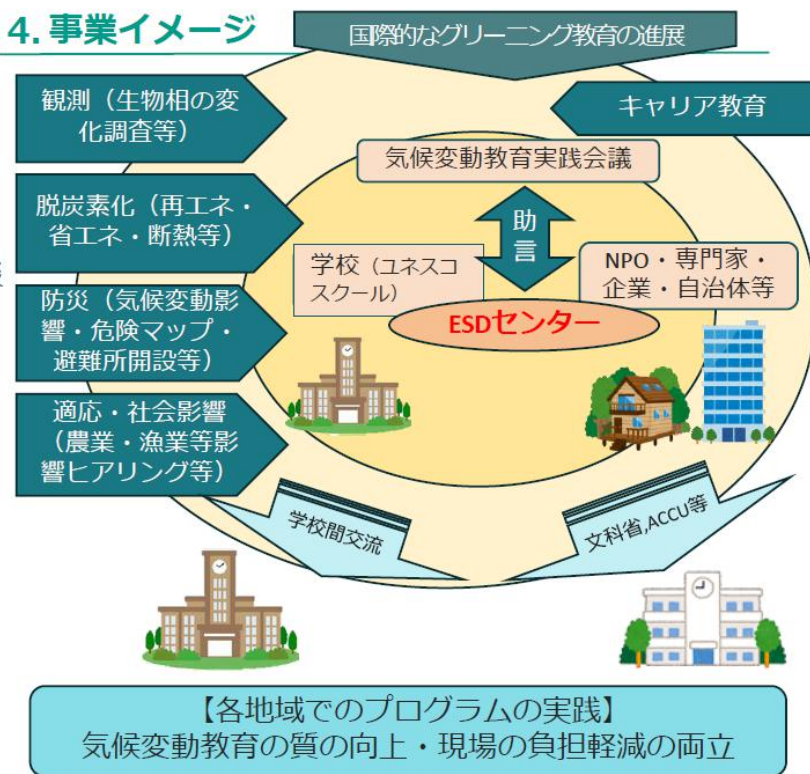
日本の環境意識は他国と比べ低く、現状の危機感が弱い傾向にある。しかも、特に危機的状況にあり、迅速な対応が求められる気候変動に関する教育は、地域特性に応じて実践的な学びを通じて、気候変動対策の自分事化を図る必要がある。気候変動教育は、小中学校で段階に応じ、その要因や影響、エネルギー問題に関連して適切に実施されていることから、それを踏まえ、環境・経済・社会を統合した総合的な気候変動教育（環境政策間のシナジーを含む）を高校等で体系的に習得できることが望ましい。

気候変動を軸に、観測（環境・生物相の変化）、脱炭素化（再エネ・省エネ等）、防災（気候変動影響・危険マップ・避難所開設等）、適応・社会影響（農業・漁業等影響ヒアリング等）について有識者からなる気候変動教育実践会議の助言を得て、プログラム等を策定した上で、学校での教職員の負担軽減を図る観点から、地方ESD活動支援センターが気候変動の専門家、地域NPO団体、気象機関、地方公共団体等の協力を経て、学校等における総合的な気候変動教育の実証事業を行う。令和7年度は3箇所各1校の実証事業を行い、モデル校での実践を核に、文科省等の協力を得て、今後5年間で、ESDの推進拠点となるユネスコスクールの全ての高校（184校）での実践を目指しつつ、教育委員会等を通じ、さらなる波及効果を狙う。

### 3. 事業スキーム

- 事業形態 請負事業
- 請負先 民間事業者・団体
- 実施期間 令和7～16年度（予定）

### 4. 事業イメージ



## 事業背景

### 環境教育等の推進に関する基本的な方針（令和6年5月14日閣議決定）

#### ● 持続可能な社会への変革に向けた環境教育の方向性

ESD（持続可能な開発のための教育）の考え方を踏まえ、環境・経済・社会の統合的向上と、具体的な変革に向けた行動促進の視点から、体験活動さらに、多様な主体同士の対話と協働、ICTの活用を通じた学びを、様々な機会で推進することが重要。

中間支援組織を活用した環境教育・協働取組の充実を図るため、ESD活動支援センターにおいて、学校、地域等からの相談対応件数（令和4年度：438件）を令和10年度に倍増を目指すことにより、認知度の向上と、学校と地域等を繋ぐ中間支援機能をより一層充実させることを目標に位置づけ。

### 現場でのニーズ

- 高校では2022年から総合的な探究学習の時間が本格導入されたが、ヒアリングの結果、探究学習は教員のみでは量・質ともに限界があると感じているとの声がある。
- 2023年の民間の教員に対するアンケート調査では、探究学習を実施する際の課題として、「教師の負担が大きい」（57.6%）、「探究学習のテーマ・課題の設定」（41.5%）、「調べ学習で終わってしまう」（38.9%）、「生徒が主体的に取り組まない」（34.9%）、「生徒がテーマ・課題に興味を持たない」（30.3%）などがあげられ、探究学習の実施に苦慮している学校も多い。  
（カンコー学生服 2023年6月 探究学習についての調査 教員対象 n=1400 複数回答あり）
- 学校として、多様な人・価値観と生徒をつなぎたいので、教員だけでなく外部の人にも教えて欲しい。
- ESDセンターへの相談事例として、探究学習、地理総合、地理探究等でSDGsに関する講師や授業プログラムの問い合わせや講師派遣が増加している。

ESD活動支援センターの持つ学校と地域をつなぐ中間支援機能を最大限活用し、地域特性に応じた実践的な環境教育を提供する必要性がある。



## 事業概要

### ●「高校」と地域に根ざした「企業」が連携した問題解決型学習（PBL）プログラムの作成・実証

#### 令和7年度実施予定

- 全国センターにおいて、「高校」と「企業」が連携した問題解決型学習（PBL）プログラムを検討し、素案を作成。
- 地方センターの協力を得ながら、全国センターが主導で、**3箇所程度**、実証校を選定し、検討したPBLプログラムの実証を行う。
- 全国センターにおいて、実証結果を踏まえ、次年度以降の展開に向けたガイドライン等の作成を行う。
- 地方センターにおいては、令和8年度以降にガイドライン等に基づいた実証を行うため、その準備段階として、関係者へのヒアリング、ニーズの掘り起こし等を行う。

#### 令和7年度実施スケジュール（案）

予定行程	令和6年度			令和7年度												
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
【全国センター、地方センター】 事業枠組を確定	→															
【全国センター主導】 今年度までの情報収集等をふまえ、地方センターや地域拠点、全国協力団体等と相談して高校でのプログラムを検討、実証		→ 実施先の選定、調整			→ プログラムの検討				→ プログラム実証（授業）、振り返り							
【地方センター】 ヒアリング、次年度の実施の調整					→											
	R6第2 回連絡 会				(第1回連絡会)									(第2回連絡会)		

## 補足

### 事業の目標

- 環境意識が低い日本において気候変動対応を加速させるために、地域特性に応じて実践的な学びを通じて気候変動対策の自分事化を図る。
- 企業や地域の産業・文化・社会活動と、高校をつなげることで「学び続けるひとづくり」を、地域でしかける。

### 事業の目的

- 地域特性に応じた実践的な気候変動教育の進展を図る。
- 地域ESD拠点が、地域の産業・文化と、学校教育をつなげるプレイヤーとなる（拠点登録が増える、というのも手段）。プロセスを、マッチングの精度をたかめる（ノウハウを蓄積して手間をさげる）ことにつなげる。（中間支援力の強化）

### ターゲット

- ターゲットは、「高校」「企業」「産業」。
- 小中学校での学びを踏まえ、環境・経済・社会を統合した総合的な気候変動教育を高校等で体系的に習得できる環境を整える。
- テーマは地域課題を踏まえ、自らで設定するが、「気候変動」を絡めたものとする。

### プログラム作成に当たって念頭におきたいこと。

- ESDセンター、地域ESD拠点に加えて、社会教育士や教育コーディネーター、地域の課題解決を掲げる拠点
- 知識教育を受けてきた高校生に、地域社会の構成員である企業がPBLを提供する/ともに作り、「行動変容」につなげる。
- 企業 = 大企業だけでなく地域の企業  
=> 「地域のなりわい、地場産業」との接点。
- 「地域」「持続可能性」を関りつけて考えていく主体性をはぐくむ  
=> PBLや気候会議といった能動的な機会を充実させる
- 誰にどの役割・機能を残すかを念頭に、ノウハウを整理していく。

### 事業の建付けイメージ

